



あつた也

然るを

鑛山費角費名準備金  
のり流出の故に  
修約書に冊子系道  
黒うらまのり  
と上り  
毎まろトのり也

六年のりか二年又

出

大正十一年四月  
大隈侯爵寄贈

鑛山費困達省準備金之内  
及流出の成行而修約書  
の控に置いたるを  
お台之報及に  
見よとの動  
中進申取  
浄土調印之上程

不吉分急未回者有之之度然如  
事報者及未打合行也

六年四月

山尾王教大輔

丹次親大輔殿

也乃之五系未定也上外冊二卷五  
却名也

定約書

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

自今鑛山入費ハ工部省定額外別段  
大藏省準備金ノ内ヲ以テ支給スルニ依  
テ大藏工部ト兩省ニ所屬ノ部分并計  
算向經畧ヲ明ニスル等兩省ノ際ニ於テ  
左ノ條件ヲ約定セリ

第一條

明治六年一月一日ヨリノ諸費ハ大藏省准  
備金ノ内ヲ以テ渡方ヲ為スヘシ尤鑛山寮

工部省  
入費仕拂方ニ付右準備ト工部省定額ノ區分  
ヲナスコト左ノ如シ

工部省定額金ノ内ヲ以テ可支給分

一 鑛山本寮中一切ノ雜費并營繕其他學校ニ関  
スル諸入費

一本寮詰官員并御雇外國人給料及旅費本  
寮宿直賄料ノ類

大蔵省準備金ノ内ヲ以テ可支給分

一 鑛山所用ノ器械建修并諸鑛物ヲ精製スル

本資消費トモ

但本資ハ測量及ニ器械買入同据付器械所  
分拆所製煉所出張<sup>所</sup>倉庫等并ニ関坑闢  
路通洞且又官員御雇外國人月給旅費其  
他諸職人足賃及出張所諸雜費等總テ関  
業ニ至ルマテノ諸入費

関坑器械或ハ器械所其他倉庫等ヲ増加シ

或ハ夫修繕及ヒ右ニ付テノ官員御傭外國  
人月給旅費等入費

消費金ハ已ニ器械運轉礦物採取入除ニ  
イタリテ官員御雇外國人月給旅費礦夫  
傭夫賃金分拆所製煉所出張所諸費其  
外諸物品運輸諸器械及諸建家并坑内小  
営繕等總テ礦物掘採ニ製煉上納マ  
テノ諸入費

本資金ハ從來ノ本資ニ加ヘルト雖モ其年  
ニハ利ヲ生セス翌年ノ到リ始テ利ヲ生ス故  
ニ一ケ年ノ利益ヲ計ルニハ歲入ト消費トヲ  
比較シ其有餘ノ利益ヲ前年マテノ本資金  
ノ幾割ノ利ト見做シ敢テ本年ノ本資ヲ算  
入スヘカラス二年三年ニ至リテ利ヲ生スル本資  
モ亦然リ

一 鑛山資用物品ノ買上并製造入費トモ

一 技術家并鑛夫傭夫給金

但外國人ト云トモ鑛山事業ニ仕役スル者ハ  
技術家并傭夫ト同視シ給料其外并各  
出張所へ差送ルヘキ金銀運輸ノ入費トモ  
總テ此準備金ノ内ヲ以テ仕拂フヘシ

一 坑并製鑛所倉庫等新築修繕ノ諸入費

一 諸鑛物并諸器械資用物品トモ諸所運轉ノ  
費用

一本寮詰官員及師長副師長等其山ノ事務

ニ付テ出張スル片ハ往來ノ旅費其他ノ諸入費ハ  
定額金内ヨリ出スト虽氏其場所毎勘定帳續込ニテ年  
計算スヘシ

但滞勤五月ニ過ルモ月給其他入費ナ者前後ノ區別ヲ以テ  
出張所ノ入費ニ相立ヘリ

一 鑛山ニ屬シタル出張所ノ營繕向并同所常務ニ屬  
スル官員及技術方其外月給旅費ヲ始メ切ノ諸費宿費料類ニ

工部省  
第二條

明治五年壬申十二月旨迄ノ諸費ハ悉皆従前ノ通り  
工部省定額ノ内ヲ以テ拂方ヲ為スヘシ然ラハ同日迄ニ  
精製衣濟ノ金銀銅即今別途ニ大蔵省へ上納スヘシ

但精鑛仕掛并鑛石ノ俵堆積ノ分ハ明治六年二月  
一日ノ九高トナシ向後鑿出ノ分ト合シ之ヲ精製衣  
等ノ諸入費ハ第一條ノ分部スル所ノ準備金ヨリ支  
結スル月費金ノ内ヲ以テ仕拂右金銀塊ハ追々上納スヘシ

第三條

諸鑛山ニ於テ從來用ユル諸器械ノ類ハ悉皆有形  
ノ俵ニテ据置キ今後買入并新調ノ分ハ勿論此准  
備金ノ内ヲ以テ仕拂フヘキ筈ナレハ其時々大蔵工部  
間協議ノ上可否ヲ決スヘシ

第四條

方今鑛山寮ヨリ手ヲ下セシ官山何ヶ所ト云フコ  
ヲ報知スヘシ又此後新鑛山ヲ起サントスレハ大蔵



省へ協議の上可否決定ス可シ

第五條

此渡シ金ノ月額ハ豫メ決定ナシ難ケレハ工部省ニ於テ凡見積ヲ立テ且ツ現今取扱フ處ノ實費ヲ成算シ當分ノ内假ニ定額ヲナシ五ヶ月或ハハケ月試ミノ上本額ヲ決定スヘシ

第六條

此月費金請取方ハ其金額ヲ以テ四五日前大

蔵省へ申入置同省ヨリ渡日限ノ報知ヲ得テ後請取方ヲ為ス可

第七條

準備金ヨリハニ仕立差出

第八條

諸鑛山ニテ精渡シ同寮預

Handwritten notes on a separate sheet of paper, including the characters '同省' and '報知'.

省へ協議の上可否決定ス可シ

第五條

此渡シ金ノ月額ハ豫メ決定ナシ難ケレハ工部省ニ於テ凡見積ヲ立テ且ツ現今取扱フ處ノ實費ヲ成算シ當分ノ内假ニ定額ヲナシ五ヶ月或ハハケ月試ミノ上本額ヲ決定スヘシ

第六條

此月費金請取方ハ其金額ヲ以テ四五日前大

藏省へ申入置同省ヨリ渡日限ノ報知ヲ得テ後請取方ヲ為ス可シ

第七條

準備金ヨリ請取タル金額遣拂精算帳ハ別冊ニ仕立差出日限等ハ定例ノ通りタル可シ

第八條

諸鑛山ニテ精鑛濟ノ金銀ハ都テ出納寮ニ相渡シ同寮預リ證書ヲ以テ大藏省ニ本納ノ手

一本資  
ラ五三  
當  
十二百  
詳明  
較

否決定ス可シ

條

ハ豫メ決定ナシ難ケレハ工部省  
ノ立テ且ツ現今取扱フ处ノ實

分ノ内假ニ定額ヲナシ五ヶ月或

上本額ヲ決定スヘシ

條

方ハ其金額ヲ以テ四五日前大

同省ヨリ渡日限ノ報知ヲ得テ後

可シ

條

取タル金額遣拂精算帳ハ別冊

等ハ定例ノ通りタル可シ

條

類濟ノ金銀ハ都テ出納寮ニ相

證書ヲ以テ大蔵省ニ本納ノ手

第七六條ノ間左ノ件ヲ加入セシ  
トス

一本資并消費金氏鑛山毎ノ所ニ區分  
ヲ立テ年々出鑛ノ高精製表ノ上ハ至  
當ノ比較ヲナシ確言ヘハ第一月一日ヨリ  
十二月世日迄ノ利益幾分タルヘヲ  
詳明ニシ翌年二月末ニ至リ若比  
較動定書ハ兩本者ニ納ムヘシ



續ラナスヘシ

右之通取極置候事

明治六年四月十三日

大藏省事務總裁

正四位大隈重信

工部大輔山尾庸三

正五位淡澤榮一

續ラナスヘシ

右之通取極置候事

月台六三十一日

得

三原端平三十一日

大藏大輔井上馨

工部大輔山尾庸三

正五位淡澤栄一

